

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 2階嬉し家		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・一日の暮らしの中で、毎日、ラジオ体操(テレビ体操)や脳トレ等を行い、アクティビティに繋がっている。 ・対面キッチンになっており、御利用者様の行動が把握できる。食事の準備や後かたづけが御利用者様と一緒にスムーズに出来る。 ・来園しやすい環境作りに職員も心掛け、ご家族様をはじめ地域の方々にも来園して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>楽し家と同様</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目の届く位置に掲示している。特に日常生活の中でご利用者が生き生きと生活できるように、出来ることを見つけ支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し季節の行事に参加し合い、交流を深めている。買い物や美容院は地区のお店を利用している。地区の方々が庭に咲いたお花を持って来て下さったり、踊りや会話をしに来て下さったりと行き来が少しづつ密になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方より定期的にボランティアで来園して頂き、書き方を週1度指導してもらっている。活動を通じ認知症の特性を理解し、グループホームを身近に思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括、ご家族の方々より情報を頂き、意見交換を行っている。今年度より、リスクマネジメントの報告を行い助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度より、市の担当者に会議に出席して頂き意見等の交換が行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」という法人の目標に添って職員一人一人は意識している。内部研修を行ったり随時話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会が主催する研修に参加したり、法人本部から年間を通じて全職員が研修を受講する機会を与えられている。又各月のケース会議や虐待委員会でも話し合い随時行動の振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者様が入所している。その都度制度を学ぶ機会がある。後見人の方からも助言を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけて説明している。家族の質問にも丁寧に対応している。契約締結後も十分な理解が得られるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見をお聞きしている。又、面接時や担当者会議の折にも素直な意見が聞かれている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議で意見を出しあっている。又、提案についても自由に発言できる雰囲気がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書により、各職員と話合う機会を持ち要望を聞いて、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部経営企画室が担当して、新人・フォローアップ・ステップアップ・リーダー研修を計画し、受講している。又、外部の研修にも積極的に参加し、ケース会議で研修報告の機会を持ち全職員に周知を図ることで、レベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市のグループホーム連絡協議会に入り、定期的に会合、研修に参加している。情報交換や交流会を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートをはじめ、関係書類を作成するときに希望を聞いている。また、ご家族や以前利用していた事業者からも情報を収集し信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人の事だけでなく、ご家族の思いや要望などにもしっかりと耳を傾け、往診時や受診の結果を報告している。又、月1回ミニだよりを家族宛に発行し、近況を報告し不安解消で信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のその時その時の状態に合わせて、何が必要かをご家族や職員で話し合い、必要に応じたサービスの提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今できることを見つけ喜びに繋げるよう取り組んだ。また、生活上役割を持ち、自分の持てる力を発揮できる場面を設定し、意欲の向上に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	三ヶ月に一回ケアプランについて話し合いを持ち、ご家族の要望を聞くと共に、協力の依頼も行っている。また、リスクに対する説明も行い、理解して頂くように努めている。毎月のミニ便りにて近況報告も随時行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人、知人宛に手紙を書いて馴染みの関係が維持出来ている。又、御家族や友人、知人の方々に来園をお願いして旧交を温めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴や個性、思い、出来ることを見極めながら、良い関係が維持できるように工夫している。必要に応じ助言や声掛け、見守りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者のご家族に対しても、季節ごとのハガキを送ったり、連絡を取り合うなど関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや気持ちを大切に、日々の生活の中に取り入れ支援している。御家族の方による情報収集で終わらせず一人一人がその人らしく暮らしていく為の現時点での課題を明らかにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中だったり知人やご家族様より情報を得て記録している。これまでの生活習慣を大切に地域での習わしなどを日々の行事の中に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやアセスメントシートを作成し、随時見直ししながら、ご家族様、職員で本人の全体像を把握し共通の理解としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人一人に添ったきめ細かなケアを行っている。月1回のケース会議やカンファレンスで家族の方と話合ったり要望をお聞きして、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録にて職員は共通認識している。又日頃の関わりの中で、気づきを多く出し合うことにより個々の特徴や状態にあう支援の方法を工夫し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて通院や買い物、その他の外出支援を行っている。四季折々の風景や行事を楽しんで頂けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と沿道で交通安全の啓発活動と一緒にいきいきサロン等の行事にも参加している。又、地区の盆踊り・大学生との交流が定期的に行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診をして頂いている。又、希望する歯科や行きつけの病院等の受診を行っている。往診のDr. には事前に情報提供し日常の様子を報告したり、薬局の方にも相談し意見を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの常勤看護師や訪問看護師に健康について医療面からの助言や相談を行い対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行。情報提供を行っている。入院中は様子を伺い快復に向けて家族や医師と退院計画の相談をするなどして連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期指針を作成し全職員で施設の方針を共有出来るよう意識統一を行っている。また家族やご本人に終末期ケアの希望などの確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを持っている。2階3階の合同でターミナルケアについて研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを全職員で回覧している。また、日頃から急変時について、ご家族の意向を聞き、職員間で話し合い適切に医療との連携ができるよう実践の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月様々な想定を行い避難訓練をご利用者と共に行っている。各ご利用者に防災袋を準備し事務所にはお粥やお水の備蓄も保管している。又、グループホームだけでなく全館合同で消防署員の指導により行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については、内部研修を行っている。ご本人が大切にしている事や御利用者が安心する言葉かけを行う様になっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のシグナルや表情などから様子を把握し気持ちを反映出来るようにその方にあった声かけを行い、意欲や充足感を持って頂けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせた暮らしを大切にしている。料理の手伝い、小物づくり、カメラやカラオケ等、利用者の趣味や特技を生かした活動を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院や地域の散髪屋を利用し好みのヘアスタイルを実現できるように支援している。好きな服を自分たちで選び、更衣時や外出時におしゃれ出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週月曜日に昼食会を行い、メニューに季節的な物や利用者の好きな物を反映させている。また、調理や盛りつけなど、出来る範囲で一緒に行っている。又、年間を通じて行事食も取り入れ食べる楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量や水分量を確認している。摂取量が少ない方には個々にあった食物や好きな飲み物を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや義歯洗浄の声かけを行っている。口腔内の清潔保持が出来るように週2回の消毒やその方にあつた口腔ケアを実施している。また、訪問歯科からアドバイスをもらい実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しておりその方にあつた排泄誘導を行っている。排便コントロールが上手く出来ない人についてはDr.と相談している。一覧表にして常に把握しやすい様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、玄米とバナナヨーグルトを提供し排便がスムーズに行える様支援している。寒天やオリーブオイル等個々に応じた予防の取り組みも行っている。医療関係者との連携も随時大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	個々の希望やペースを大切にし湯温等にも気配りしながら入浴を楽しんでもらっている。袖湯、菖蒲湯、バラ湯を提供し季節の変化を感じてもらっている。又、入浴出来ない御利用者については随時全身清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて就寝したり休息を取っている。夕食後は団らんとし趣味やテレビ、読書等を楽しくゆっくり過ごして安眠に繋がる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬や定時薬の処方変更になった際は連絡ノートとお薬手帳にて様子観察、状態変化の確認を行っている。服薬前に職員間で4回の確認を行い飲込みまで把握するよう共通認識をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、工作、調理、カメラ、園芸、家事手伝い等個々の特徴にあつた役割を見つけ生き甲斐ある生活を支援している。手作りの雑巾を社協に寄附し感謝されることで、社会貢献できる達成感や満足感を得る事ができた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により外食や外出する機会を設けている。散歩中には地域住民の一員として買い物をしたり馴染みとなつた近隣のお宅を訪問し、会話を楽しんだり四季折々の花や植物観賞を楽しみ気分転換が図れるように支援している。四季の花見ドライブに全員出掛けている。(桜、菖蒲、蓮、紅葉、イルミネーション等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお小遣いを個人で管理し、買い物に行った時に、好みの物を購入できる様支援している。支払いも本人にして頂けるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置しており、いつでも家族や知人とゆっくり話せる様支援している。また定期的に葉書を出して返事を頂いたり大切な関係が維持できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者はリビングに集まるのが好きな方が多く、個々に好きなことをして過ごしている。午前中に一度、皆でラジオ体操、テレビ体操を行い、居室には各人で色塗りしたカレンダーを展示している。季節の花をご近所の方に頂き癒しの空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやテーブルを設置し、一人または数名で楽しめる空間を作っている。そこでそれぞれのペースで自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具や家族の写真を用意し、ご家族の要望や個々に合わせた居室づくりを行っている。ベランダで花を育てたり、自ら衣替えを行ったりと自宅と同じように過すことが出来ている。タンスに収納しやすい様に引きだしにラベルを貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には表札を掛け、自分で作った作品を掲示し、自分の部屋だと分かるようにしている。ご利用者の混乱が生じた時は話し合っ解決できるよう支援している。		